

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

令和 4 (2022) 年 2 月号

編 集  
発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15

一般社団法人 日本病院会 教育部教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <https://jha-e.jp/>

受付時間 10:00~17:00

(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日 毎月 1 日



## ニューノーマルを考える

福島 明宗

岩手医科大学附属病院 医療情報管理部長  
岩手医科大学医学部 臨床遺伝学科 教授  
基礎課程小委員会 委員

社会情勢が極めて目まぐるしく変化している中で、時事ネタを用いるのは幾分躊躇している今日この頃です。さて COVID-19 に一喜一憂して、いよいよ 3 年目となります。感染力は強いが、重症化しにくいと言われるオミクロン変異株の出現とその市中感染が本稿発行の 2 月にはどうなっているのか？ 2021 年末に居る（執筆時）私には全く想像ができません。さて 20 世紀初頭にパンデミックとなったスペイン風邪(H1N1 亜型インフルエンザ)は、1918-1921 年の 3 年間にかけて第 1 波から第 3 波まで 3 回の感染ピークを認め、日本においては 2,380 万 4,673 人の患者と 38 万 8,727 人の死者を出しました（内務省衛生局編 1922 年）。東京駅舎、日本銀行本店、私の居住する盛岡市に現存する「岩手銀行赤レンガ館」など全国に多数の重要文化財を残した建築家、辰野金吾博士はこのスペイン風邪の犠牲者であります。スペイン風邪と比較するのが適切なのかは分かりませんが、およそ 1 世紀後の 2019 年 12 月より始まり流行 3 年目に入った新型コロナウイルス感染症は、スペイン風邪同様 2022 年末には消え去るのか？ まさに 2022 年の動向が鍵になりそうです。

さて COVID-19 感染により、図らずも進歩を遂げたのが「対面無し会議」。ここであえて Web 会議、オンライン会議、リモート会議としなかったのは、それらが微妙に違うからであります。まずは Web 会議とオンライン会議ですが、インターネットを介してオンライン上で会議を行う全く同じものです。次にリモート会議ですが、「遠隔地にいるもの同士が何らかの方法で参加する会議」と定義されております。実はこの何らかの方法には、複数人と同時に電話通話する「電話会議」、インターネット以外の専用回線を利用して映像・音声の交換を行う「テレビ会議」なども含まれるため、リモート会議 > Web 会議（オンライン会議）という関係になるようです。専用の機材とそれらが固定設置された会場でしか実施出来ないテレビ会議には、設備費、運用維持費に多大なコストがかかります。一方 Web 会議（オンライン会議）は、汎用インターネット回線、汎用 PC やタブレット、スマートフォンなどが利用可能で実施場所も限定されないのは皆様ご存じの通りです。Web 会議（オンライン会議）の方が今や主流になり、各種会議、研修会、授業、学会等で盛んに活用されております。私が子どもの頃思い描いていた未来予想図がまさに到来した、といった感じです。ところで時間空間を超越できるコミュニケーションツールを持った人類は、更に進化を遂げる一方で、失われているものはないのでしょうか？ 本来コミュニケーションにはアナログ的（情緒的とでも）側面があり、それがリアルワールド（3D、4D 的世界観）ではとても大切なのですが、2D 的世界観しかない Web 会議（オンライン会議）が今後どのように発展していくのか？ 私としては興味がつきません。我々としても 2D 的情報である診療情報から、その奥に広がっている 3D、4D の世界までを常に考慮しながら勉学にあたらねばならないと思います。対象としているのはデータではなく「人間とその人生」なのですから。

